

News Release

2023年10月26日
独立行政法人製品評価技術基盤機構
NITE（ナイト）
東北支所

シーズン初めの石油ストーブ安全大作戦 ～5つのポイントで火災事故を防ごう！～ (東北版資料)

1. 事故の発生状況

2018年度から2022年度までの5年間で、NITEに通知があった製品事故情報^{*1}では、石油ストーブ及び石油ファンヒーター（以下、石油ストーブ等）の件数は233件発生しており、そのうち東北地方6県（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県）では29件の事故がありました。

被害状況は死亡3件、重傷2件、軽傷5件、拡大被害16件、製品破損3件となっております。

表1 石油ストーブ等の年度別事故発生件数

発生年 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
2018年度	1	0	2	0	1	0	4
2019年度	0	0	1	1	0	1	3
2020年度	0	3	2	1	1	0	7
2021年度	4	1	1	0	0	2	8
2022年度	2	1	1	3	0	0	7
合計	7	5	7	5	2	3	29

表2 石油ストーブ等の被害状況別発生件数

被害状況 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
死亡	0	2	1	0	0	0	3
重傷	0	1	0	1	0	0	2
軽傷	2	1	1	1	0	0	5
拡大被害	4	1	5	2	2	2	16
製品破損	1	0	0	1	0	1	3
被害なし	0	0	0	0	0	0	0
合計	7	5	7	5	2	3	29

表3 石油ストーブ等の原因区分別発生件数

原因区分		発生県						合計
		青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	
製品に起因する事故	A: 設計、製造又は表示等に問題があったもの	0	0	0	0	0	0	0
	B: 製品及び使い方に問題があったもの	0	0	0	1	0	0	1
	C: 経年劣化によるもの	0	0	0	0	0	0	0
	G3: 製品起因ではあるが、その原因が不明のもの	0	0	0	0	0	0	0
製品に起因しない事故	D: 施工、修理、又は輸送等に問題があったもの	0	0	0	0	0	0	0
	E: 誤使用や不注意によるもの	3	0	1	0	0	0	4
	F: その他製品に起因しないもの	1	3	3	3	1	1	12
G1、G2: 原因不明のもの		1	2	2	0	1	1	7
H: 調査中のもの		2	0	1	1	0	1	5
合計		7	5	7	5	2	3	29

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含み、事故発生年月が不明なものを除きます。

2. 主な事件事例

○ 2020年12月30日 石油ストーブ（開放式）（秋田県、年齢性別不明）

事故内容： 当該製品の給油タンクを引き抜いたところ、灯油が漏れ、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生し、1名が軽傷を負った。

事故原因： 当該製品は、カートリッジタンクの口金キャップが閉まったと誤認しやすい構造であり、使用者が給油後に口金キャップを確実に閉めなかったため、カートリッジタンクが本体から抜かれた際に口金キャップが外れてカートリッジタンク内の灯油がこぼれ、火がついた状態の当該製品に灯油が掛かり火災に至ったものと推定される。なお、取扱説明書には、「口金は正しく確実に閉める。」旨、記載されている

○ 2021年1月12日 石油ストーブ（開放式）（岩手県、年齢不明男性）

事故内容： 当該製品及び建物を全焼する火災が発生し、1名が重傷を負った。

事故原因： 事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、給油した際にこぼした灯油を拭き取った布を当該製品の置台と燃料タンクの隙間に挟み込んだことにより、空気取入口が狭くなり空気が供給されず、不完全燃焼となったため吹き返し現象が起り、灯油を拭き取った布等に燃え広がったものと考えらる。

○ 2021年12月14日 石油ストーブ（開放式）（青森県、60歳代男性）

事故内容： 石油ストーブを使用中、本体付近から出火して住宅を焼損し、1人が火傷を負った。

事故原因： 事故品と同じ居室にあった石油ファンヒーター及び灯油用樹脂製容器にガソリンが入っていたことから、使用者が事故品に誤ってガソリンを給油したことで出火に至ったものと考えられ、使用者の不注意による事故と推定される。なお、本体、燃料タンク及び取扱説明書には、「ガソリン使用禁

止。使用燃料: 灯油 火災の原因になる。」旨、記載されている。

○ 2021年12月19日 石油温風暖房機(開放式)(宮城県、80歳以上男性)

事故内容: 建物を全焼する火災が発生し、1名が軽傷を負った。現場に当該製品があった。

事故原因: 当該製品の吹き出し口とこたつが近接した位置に設置されていたため、こたつ布団が過熱されて出火したものと推定される。なお、取扱説明書には、「カーテン、可燃物近接禁止。ファンヒーターの前にセーターや座布団などを置かない。火災が発生するおそれがある。」旨、記載されている。

3. 石油ストーブでの火災事故を防ぐための5つのポイント

ポイント1 ほこりがたまっていれば取り除く。

使用を始める前に掃除を行い、シーズン中も定期的に掃除をしてください。特に石油ストーブの置台や、燃烧部位の近くなどにほこりがたまらないようにしてください。



(掃除不足の例)
置台にたまったほこり

ポイント2 対震自動消火装置が正しく作動することを確認する。さらに石油ストーブの場合は、燃烧筒が正しく取り付けられていることを確認する。

燃烧筒をセットした時や、点火操作後には、燃烧筒のつまみを2~3回ほど動かして燃烧筒が正しくセットされているか確認してください。



ポイント3 燃料は新しい灯油を使う。ガソリンや混合燃料、昨シーズンの灯油は使わない。

ポイント4 カートリッジタンクの給油口ふたが確実に閉まっていること、漏れがないことを確認する。

給油後は、給油口ふたがしっかり閉まっていることを必ず確認してから本体にセットしてください。また、給油する際は、必ず先に消火してください。



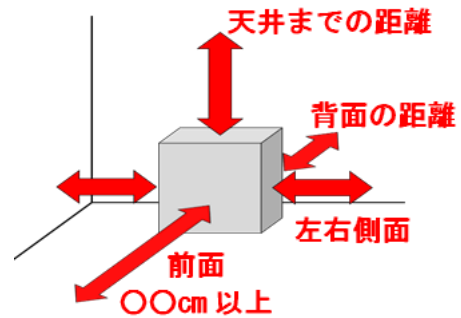
ポイント5 機器と周囲の壁や可燃物との十分な距離が確保できていることを確認する。

石油ストーブ等を使用するときは、壁や周囲の家具、衣類などから指定された距離をとりましょう。

(距離表示の記載例)

取扱説明書に周囲の物や天井、壁などとの距離について記載があります。

※距離は製品によって異なります。

**4. 製品事故の実験映像につきまして**

製品事故の写真及び動画をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。
なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITE のロゴ」としてください。

【編集人のつぶやき】

国際情勢や、円高の影響でまだまだ灯油の高値は続きそうですネ。ニュースなどで「来週からさらに値上がりします・・・」などの情報があると、つつい買いだめに走ってしまいがちですが、もしも暖冬になった場合は春先までに使い切れずに灯油が残ってしまう事態になりかねません・・・。

事故を防ぐためのポイントである、「昨シーズンの灯油は使わない。」ためには計画的な灯油の購入が必要になりそうです。

(本件に関する問い合わせ先)

〒983-0833 宮城県仙台市宮城野区東仙台 4-5-18

独立行政法人製品評価技術基盤機構 東北支所(略称:NITE) ナイト

責任者(支所長):高橋 幹男

担当:齋藤(さいとう)、福井(ふくい)、成田(なりた)

電話:022-256-6423

E-mail: jiko-tohoku@nite.go.jp

NITE
ホームページ

YouTube
公式チャンネル

Twitter
公式アカウント

